

# 2011 信州大学 FD カンファレンス プログラム

2011 年 9 月 26 日（月）～27 日（火）

|              |                                                   |       |                                       |       |
|--------------|---------------------------------------------------|-------|---------------------------------------|-------|
|              | FD 研修 : (A)                                       |       | 新任教員 FD 研修(2) : (B)                   |       |
| 9 月 26 日 (月) |                                                   |       |                                       |       |
| 10:00~10:15  | 開会式                                               |       |                                       |       |
| 10:15~11:45  | ALL1-L : 大学生はどこで何を学んでいるのか<br>—学習成果としての汎用的能力— (吉原) |       |                                       |       |
| 11:45~13:00  | 昼休み                                               |       |                                       |       |
| 13:00~14:30  | A1-WS : 大学で学ぶということ                                | 加藤(善) | B1-導入 WS : 「最近の学生は…」                  | 松岡    |
| 14:30~14:50  | 休憩                                                |       |                                       |       |
| 14:50~16:20  | A2-WS : 学生の学びを評価する—評価文化をつくろう—                     | 吉原    | B2-WS : 授業においてスタディスキルを扱うには？           | 松岡    |
| 16:20~16:40  | 休憩                                                |       |                                       |       |
| 16:40~18:10  | A3-L/WS : 科研費申請書の書き方                              | 加藤(鉦) | B3-WS : 積極的傾聴法                        | 加藤(善) |
| 9 月 27 日 (火) |                                                   |       |                                       |       |
| 9:00~10:30   | A4-L/WS : 学習理論                                    | 加藤(善) | B4- L/WS : 学生の学びを評価する—「評価されること」を経験する— | 吉原    |
| 10:30~10:50  | 休憩                                                |       |                                       |       |
| 10:50~11:50  | ALL2-まとめ・アンケート (松岡)                               |       |                                       |       |
| 11:50~12:00  | 閉会式                                               |       |                                       |       |

☆ L : レクチャー, WS : ワークショップ

☆ ALL : 全体対象, A : FD 研修プログラム, B : 新任研修プログラム

☆ 全体対象 (ALL) 以外は, A・B からどちらかを選択することができます.

## 研修概要

### 全体プログラム

#### ALL1-L : 大学生はどこで何を学んでいるのか ―学習成果としての汎用的能力― (吉原)

近年、大学教育において、教え込み中心の教育から学習者主体の教育へとまなざしに変化するとともに、大学生が身につけることを期待される能力の設定とその育成に関心が集まっています。そのような流れのなかで、学習成果をどのように捉え、どのように測るのが重要な課題となっています。そこで、本レクチャーでは、あらためて学習成果とは何かを学生の視点に立って考えます。とくに、学生にとって学びとは何かを「学生がどこで何を学んでいる」と感じているのかを中心として、汎用的能力に関する調査データ等をもとに見ていきます。

#### ALL2-まとめ・アンケート (松岡)

カンファレンス全体のまとめを行う。

「FD 研修(A)」および「新任教員研修(B)」のそれぞれの成果を確認した後、アンケートを行って、今回のカンファレンスの評価を行う。

### FD 研修 : (A)

#### A1-WS : 大学で学ぶということ (加藤(善))

高校から大学への移行をスムーズに行わなければ、学生を勉学に向かせることはできません。「大学生になる」ということは何を意味するのか、また大学生になるためのハードルはどのようなところに存在し、どうすれば解決するのかを、ワークショップと講義を交えながら考えます。

#### A2-WS : 学生の学びを評価する ―評価文化をつくろう― (吉原)

学生の学びを評価することは、さまざまな方法があります。近年では、ポートフォリオやルーブリックによる評価などが提案されるなど、授業スタイルや学習内容にあわせた多様な評価手法の選択が求められています。この WS では、参加される先生方が実際に採用されている評価方法を共有することを通じて、学習評価の方法について一緒に考えていきたいと思います。

#### A3-L/WS : 科研費申請書の書き方 (加藤(鉦))

①科研の申請書はプレゼンである。それも、②勝たなければならないプレゼンである。しかも、プレゼンされる側（つまり審査員）としては、③できれば聞きたくない・読みたくないプレゼンである。この3点を申請書作成方法の基本に置いた場合、どういう申請書の書き方になるのかについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

#### A4-L/WS : 学習理論 (加藤(善))

「レポートはしっかり書くのにコミュニケーション能力が乏しい」「積極的にグループワークでも発言するのに、レポートを書くときどうして・・・」という学生、いませんか。これは人間の認知傾向がこのようになっているからです。学生の思考や行動特性を類型化して考え、異なる能力を同時に伸

ばす授業デザインを考えます。

## 新任教員 FD 研修(2) : (B)

### B1-導入 WS : 「最近の学生は…」 (松岡)

新任教員に対する FD の導入として、「最近の学生」について考えます。

大学、そして学生を取り巻く状況は年々変化しています。それと同時に、教員が学生だった頃とはかなり異質な学生がキャンパスを歩き、授業に参加しています。それは必然的に教育方法の変化を促すのではないのでしょうか？この WS では、「それでは最近の学生は、教員が学生だった頃とどのように違うのか？」という点について、グループワークを通して明らかにしつつ、問題点への対処を考えていきます。

### B2-WS : 授業においてスタディスキルを扱うには？ (松岡)

ノートのとり方や文章作成能力といった「スタディスキル」については、確かに新入生ゼミナール他の特別枠の授業で扱われるようになってきてはいるが、果たして実際に学生が、個々の授業での学習とうまく結びつけているのか、という点に関しては疑問の余地がある。

そこで、「教え方のトレーニング」の一環として、学生の「学び方のトレーニング」を行う方法＝「スタディスキルを授業においてどう扱うか」ということについて一緒に考えてみたいと思う。

### B3-WS : 積極的傾聴法 (加藤(善))

学生は、アドバイスをくれる教員よりも話を聞いてくれる教員をより信頼します。「相談に乗ってもらった」と学生が感じ、学生が自ら解決に至ることを支援する接し方を、体験的に学びます。

### B4-L/WS : 学生の学びを評価する ―「評価されること」を経験する― (吉原)

学生の学びを評価することは、さまざまな方法があります。近年では、ポートフォリオやルーブリックによる評価などが提案されるなど、授業スタイルや学習内容にあわせた多様な評価手法の選択が求められています。このWSでは、さまざまな評価手法を簡単に概観するとともに、参加される先生方が実際に採用されている評価方法を共有することを通じて、学習評価の方法について、一緒に考えていきたいと思います。

## 担当者：

吉原恵子：兵庫大学生涯福祉学部

加藤鉦三：信州大学高等教育研究センター

加藤善子：信州大学高等教育研究センター

松岡幸司：信州大学全学教育機構言語教育センター、高等教育研究センター（兼任）